

乳牛は戦後最高 和牛は大巾に減少 昨年中の種付成績

昭和30年中の家畜の種付並びに生産の状況がこのほどまとまったが、その概況は次のとおりである。

一. 種付及び生産頭数

和牛の種付総頭数は3万8,140頭、生産頭数は3万3,326頭で前年より約3,000頭の減少を示し、過去4年間の最低であった。しかも30年中の受胎見込（昭和31年生産見込）は種付頭数の約93.88%、3万5,809頭であるが、30年中に牛価安のため相当数の妊娠牛が肉用として消費された傾向があるので、本年中の生産頭数

は、受胎見込頭数より相当下回るものと予想される。

乳牛においては、種付4,307頭、生産3,700頭で何れも昨年より1割方増加している。なお集約酪農地域指定に伴って導入されたジャージー種乳牛についても30年中に236頭の種付が行われた。

次に山羊は、県家畜保健衛生所及び民営人工授精所（1箇所）の実績であるが、種付頭数2,522頭で年々急速な増加を示し28年の約2倍となっていることが特に注目された。

乳牛種付成績（人工授精）

所有者区分	頭数	30年種付			29年種付 実頭数	29年種付による産仔数		
		実頭数	延頭数	受胎見込		総数	オス	メス
国有貸付	5	661	1,246	564	698	631	328	303
県有	6	1,566	2,886	1,390	1,301	1,146	547	599
農協有	4	882	2,414	746	598	378	201	177
その他	4	1,198	1,936	1,099	1,383	1,258	609	649
計	19	4,307	8,482	3,799	3,980	3,413	1,685	1,728

山羊種付成績

所有者区分	頭数	種付 区分	30年種付			29年種付 実頭数	29年種付による産仔数		
			実頭数	延頭数	受胎見込		総数	オス	メス
国有貸付	8	自然	108	111	105	137	226	109	117
		人工	1,064	1,289	977	616	1,097	546	551
		計	1,172	1,400	1,082	753	1,323	655	668
県有	10	自然	139	151	133	166	215	129	86
		人工	1,078	1,387	1,038	718	994	534	460
		計	1,217	1,538	1,171	884	1,209	663	546
その他	1	人工	380	458	375	—	—	—	—
計	19	自然	247	262	238	303	441	238	203
		人工	2,522	3,134	2,390	1,334	2,091	1,080	1,011
		計	2,769	3,396	2,628	1,637	2,532	1,318	1,214

二. 人工授精の状況

県下の家畜人工授精所は30年末において、県営29、民営65、計94箇所、279名の人工授精師が直接授精業務に携っている。家畜別にその普及をみると、乳牛においては総種付頭数の100%、和牛は74%、山羊36%

（推定）となっている。28年に比較すると乳牛において8%、和牛に於て14%、山羊において16%の増加である。